



瀬戸神社と東照宮

今年(平成27年)は徳川家康公御神忌四百年

徳川家康公は駿府(静岡)で元和二年(一六一六)四月十七日に生涯を終へられました。遺言により直ちに久能山に神葬され、翌年には日光に移され、東照大権現として祀られました。今年(平成27年)はそれよりちょうど四百年

がたちまへ、徳川家康公の御神徳はまさに神様、権現様と仰ぐべきもので、現在の世に平和を念ずる祈りに通ずる心があります。



「みたまのふゆ」とは、私共が常に蒙りいただいである大神様の恩徳、加護、御神威を尊称した言葉です。人間は自分ひとりの力で生きてゐるのではなく、つねに「みたまのふゆ」をいただいで、生かされてゐるのです。

目にあたりま

瀬戸神社にも東照宮(徳川家康公)がお祀りされてをります。家康公は関ヶ原合戦の直前に鎌倉を経由し金澤に来訪、その後、大御所となつて駿府に引退してから

も、江戸城に往復する途次には金沢に滞在しその風光を愛でられました。ですから江戸城の本丸御殿はじめ二の丸御殿、西の丸御殿の襖には金澤八景の図が奥絵師狩野養信の筆により描かれてもみました。その金澤の景勝の眺望できる権現山(金沢八景駅西側)に東照宮が造営され、その管理を任されたのが円通寺で、円通寺客殿は市の認定歴史的建造物として現存してゐます。明治維新になり神仏分離の政策により、東照宮は瀬戸神社に合祀されました。以来、家康公の御神像は本殿の奥に奉安されたままでしたが、先年の瀬戸神社御修造に際して調査をいたしました。それにより寛永十五年(一六三八)大和郡山藩主本多政長の寄進であることが判明しました。金澤の東照宮の御造営はこのころと推察できます。

(写真は瀬戸神社所蔵の東照宮徳川家康公御神像)

平成二十七年度祭事曆

- ◎ 一月 一日 歳旦祭
- ◎ 鶏鳴神事
- ◎ 三月 二日 春季大祭
- ◎ 祈年祭・合祀神例祭
- ◎ 五月 一日 例大祭
- ◎ 神社本廳献幣使参向
- ◎ 琵琶島弁天社へ神輿渡御
- ◎ 四月 二九日 昭和祭
- ◎ 六月 三〇日 大祓式
- ◎ 大祓人形納め・茅の輪神事
- ◎ 七月 五日 天王祭出御祭
- ◎ 本社神輿御霊入・宮出渡御
- ◎ 七月 七日 三つ目神楽
- ◎ 無形文化財湯立て神楽
- ◎ 七月 二二日 天王祭巡幸祭
- ◎ 天王神輿町内巡幸
- ◎ 七月 一九日 手子神社例祭
- ◎ 九月 一日 浅間神社例祭
- ◎ 九月 一七日 熊野神社例祭
- ◎ 無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一〇月 一八日 手子神社秋祭
- ◎ 無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一二月 三三日 秋季大祭
- ◎ 新嘗祭
- ◎ 二月 八日 歳の市
- ◎ 開運熊手授与
- ◎ 二月 三三日 天長祭
- ◎ 二月 三三日 大祓式
- ◎ 大祓人形納め・古札焼納式
- ◎ 毎月 一日 月次祭